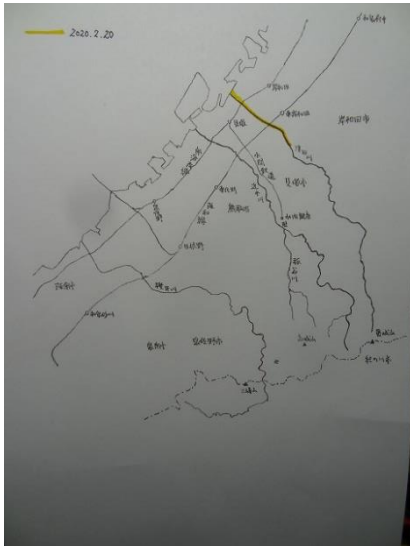


## 日本あちこち河川遡行記（第 314 回）

大阪-5. 津田川（その 1）前半 令和 2 年 2 月 20 日（木）晴一時曇り

泉州の新しい川「津田川」に向かう。新型肺炎流行のニュースが連日流され、マスク、アルコール手洗いが店頭から消える異常事態になっている。本当に必要な人が大勢いるのに大量に買い込み高値で転売する輩がいる。こういうことをする輩は厳罰に処する法令が必要であるこの頃。

マスクとアルコールティッシュを用意して新幹線、大阪メトロ、南海本線乗り継ぐ。岸和田駅で急行を降り各停を待っていると関空特急ラピートがやって来て停車。大きな丸窓が特徴の電車であるが中を見ると空席が目立つ。観光業は天国から地獄へ急降下である。



01.今回調査区間位置図



02.丸窓が続く関空特急ラピート

やって来た各停に乗り発車したと思ったらすぐに「蛸地蔵」駅に着く。けったいな駅名ベスト 10 に入る駅名である。たこ焼き屋の守り本尊になっているのかな。南海電鉄の礎の「阪堺鉄道」は日本初の民間資金だけで開業した鉄道で、難波～和歌山間の本線は明治 36 年に完成している。一部の駅に当時の駅舎が残り、大正時代完成の蛸地蔵も駅舎を改修して今も使っているようだ。ホームの板壁、屋根を支える支柱などレトロな雰囲気満載の南海本線の駅である。駅舎を一つずつ見て行く各停の旅も面白いだろうな。南海さん、そういう切符とスタンプカード巡りをしまへんか？



03.「蛸地蔵」駅で下車



04.リニューアルされた大正時代の駅舎

駅を出てすぐの所に周辺の絵地図が有る。線路に向かってみた地図なので南北方向を見極めるのが難しくなっている。津田川近くに岸和田城と「だんじり会館」が有るので先ずはそちらに向かう。大阪生まれ育ちだが南の方とは縁が無く、初めて訪れる岸和田である。清原君、来たで！

狭い道を北に進み岸和田高校にぶつかる三つ角を左に曲がるといきなり目の前に岸和田城天守閣が現れる。想像していた城の姿よりも大きく、立派な姿容にびっくりする。大阪城を二回りほど小さくした姿であるが二層目の入母屋屋根が際立つ姿である。堀、石垣とのバランスが良い。石垣だけが極端に高い丸亀城、伊賀上野城、天守閣が極端に小さな高知城や宇和島城などはバランスが悪い。



05.駅前の周辺絵地図 (左上方向が北)



06.岸和田城は予想以上にご立派！

堀の南側を西に向かうと左側に「五風荘」なる大きな施設の前を通過する。城主の茶屋跡を地元の寺田財閥が邸宅として整備した建物と庭園がある。帰宅して調べると、中には「がんこ寿し」の店があるようだ。がんこは高校を卒業してすぐの頃に十三に開店したすし屋だが、今では多くの店を持つ企業で古い邸宅などの維持管理をかねて多くの邸宅跡に出店している。インフラメンテならぬ

文化財メンテである。



07.城の西には豪勢な建物と庭園が



08.「五風荘」の解説、茶屋跡には「がんこ」が入店

堀沿いの遊歩道を進み振り返ると、天守と堀の向こうに岸和田高校が見える。城内またはその近くには県庁、県警本部、市役所、名門公立高校が有るが、大阪府で現存する天守閣のすぐそばに高校が有るのはここと大手前だけだろう。大学の同じ科にこの高校から来た Y 君が居たのを思いだす。当方の高校は近くにラブホが密集していたな。環境の違いが激しいな。



09.天守閣と対峙する岸和田高校



10.堀に囲まれた岸和田城一の丸

大手門の前に城のかつての絵図が展示されており、6万石にしては広く大きな城で幾重にも堀を巡らした大大名の城のように感じる。

二の丸の石垣を見ると石垣の構造、石の積み方が異なってゴチャゴチャになっている。修復もしくは石垣高さを変更したことによる違いなのかな？北端ま

で来ると、かつての海岸線が城の近くまで来ていたことを説明している。



11.かつての城には幾重にも堀が有ったのだ

12.城壁は積み方の異なる石積みが混在している



13. 城の北西は直ぐに海が有った

すぐ下を通る府道に降りると直ぐに「だんじり会館」が有る。大きく立派な建物で、祭りの引き車などを保存、展示している同種の会館（高山、秩父、犬山、博多など）に負けない規模である。1階は無料で観光案内所も有る。そこでいくつか説明を受け、有料の2階へは時間も無いので行かずに外に出る。だんじりを飾る彫り物は立派だが豪華賢覧とは言い難いのでお金を払ってまで見る気にはならない。



14. 「だんじり会館」に立ち寄る

会館からすぐの「旧紀州街道」にやって来て西に進む。電柱が邪魔だが街道の雰囲気は漂っているぞ。浄土宗「光明寺」の前を通り、街道から別の道を河口の方に進むと臨済宗「梅溪寺」が有る。門の潜り戸の屋根瓦には三つ葉葵の紋が入っている。門に紋だ。



15. この通りが「紀州街道」、紀州徳川の吉宗も通っただろう



16. 臨済宗梅溪寺の瓦は三つ葉葵だ

更に進むと本命の浄土宗「天性寺」に着く。ここには大きな地蔵尊が祀られ、解説によると岸和田が紀州の根来衆に攻撃された時、水中の蛸と法師が戦って城を守り、その法師がこの地の地蔵尊の化身だとの言い伝えが有り、その結果お地蔵さんは蛸地蔵と言われることになった、とき。地蔵尊は大きなお堂に祀られており外からは見えないようになっている。もしかして 8 本脚の地蔵尊かも知れないぞ。駅名はここから名付けられたようだ。阿波の南部には「鯖大師」と言われるお寺が有るのを思いだした。



17. 駅名の元はここ天性寺の蛸地藏から



18. 蛸地藏はこの建物の中に有るが見えない



19. 境内は春爛漫の雰囲気

[ 続く ]